１．あなたご自身のこと

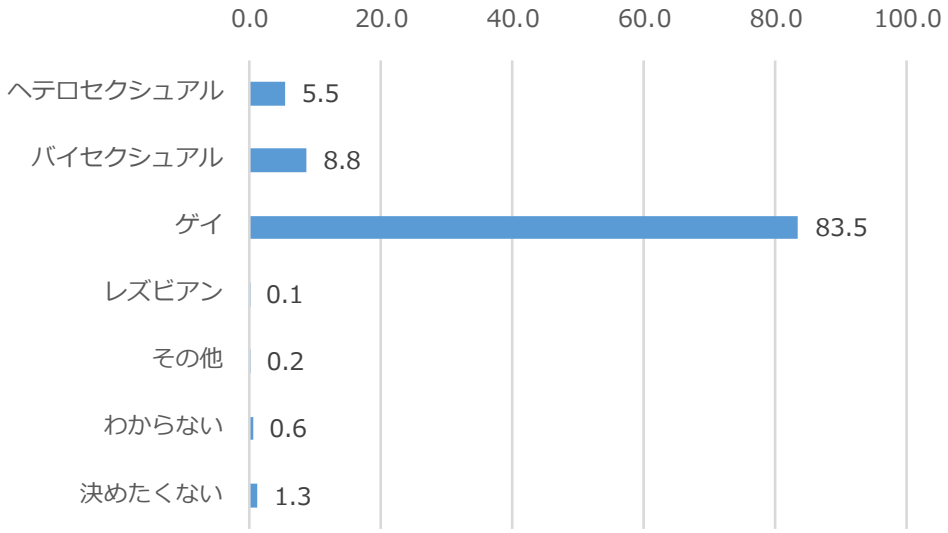
■分析対象者数

HIV Futures Japan プロジェクトにより実施された「第 3 回 HIV 陽性者のためのウェブ調査」に寄せられた回答のうち、不正回答データ及び国外在住者を除き、日本国内在住の HIV 陽性者 908 人による回答を有効回答と判断し分析対象としました。第 1 回調査では分析対象者数は 913 人、第 2 回調査では 1038 人でしたから、今回の第 3 回調査では有効回答者数が若干少なくなったということになります。調査回答期間中に新型コロナウイルス感染が広がったという出来事があったことも影響しているかもしれません。
なお、調査結果サマリーでは、一部、無回答を除いた割合を表記しています。

■性別・セクシュアリティ

性別は男性が 879 人（96.8%）、女性が 22 人（2.4%），その他・答えたくないと回答した者が 7 人（0.7%）でした。セクシュアリティについては、ゲイが 758 人（83.5%）ともっとも多く、バイセクシュアルが 80 人（8.8%）、ヘテロセクシュアルが 50 人（5.5%）と続いていました（図 1-1）。トランスジェンダーであるとの回答は 12 人（1.3%）からありました。

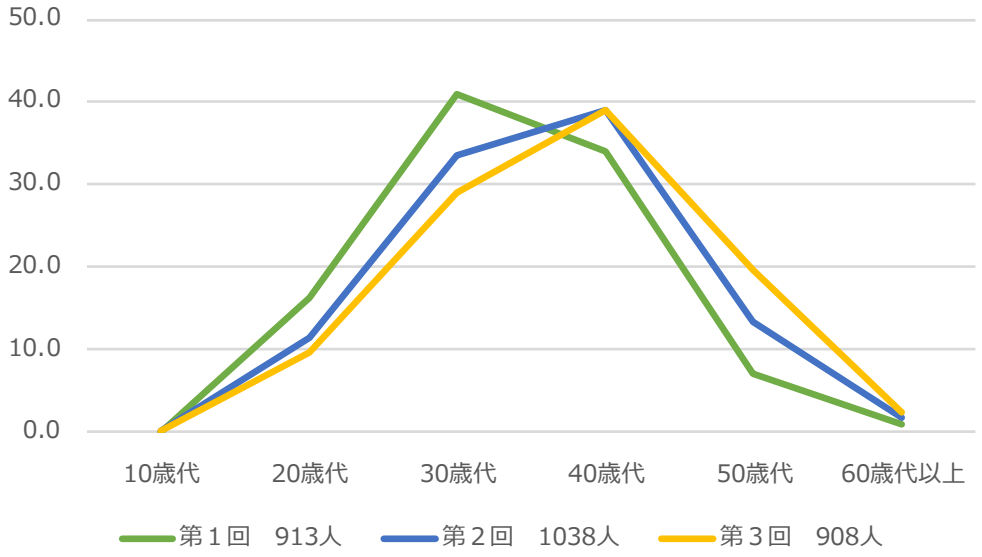
図 1-1　セクシュアリティ（%, N=908）



■ **年齢**

回答者の年齢は 18 歳から 70 歳にわたっており、中央値（真ん中の値）は 43 歳でした（図 1-2 の黄色が今回の調査での年齢層）。第 1 回調査回答者と比べると年齢層が上がっていましたが、第 2 回調査回答者と比べるとあまり変わらない状況でした。

図 1-2　回答者の年齢層（%, N=908）



■**HIV 陽性者を対象としたアンケート調査の協力経験**

HIV 陽性者を対象としたアンケート調査への協力経験については、経験がある方が 455 人（50.1%）でした。経験がある方の協力回数は 1 回から 20 回にわたっており、協力回数は 1～3 回がもっとも多くなっていました（377 人、41.5%）。この 3 年前に行われた第 2 回調査と比べると、ほぼ同程度の数値となりました。

本調査を知ったきっかけの上位は「某 GPS 機能付きアプリ広告」が 577 人（63.5%）ともっとも多く、次いで「Twitter」が 164 人（18.1%）、「JaNP+からのメール」が 58 人（6.4%）でした。第 2 回調査と比較すると、上位 3 つについてはいずれも増えており、一方で「インターネット上のブログや掲示板」「Futures Japan の総合情報サイト」「HIV 陽性者向けの SNS」経由で知った者は少なくなっていました

表1-1　この調査研究をどこで知ったか（複数回答、N=908）

	%
o 某GPS機能付きアプリ広告で知った	**63.5**
o Twitterで知った	**18.1**
o JaNP+からのメール	**6.4**
o Futures Japanの総合情報サイトで見た	3.9
o 医療機関のスタッフから口頭で教えてもらった	3.5
o Futures関係者から聞いた	2.4
o 友人・知人から口頭で教えてもらった	2.4
o Futures Japan調査のフライヤー・チラシで見た	2.1
o HIVに関するNGO/NPOのWEBページで見た	1.5
o インターネット上のブログや掲示板を見て知った	1.5
o NGO/NPOのスタッフから口頭で教えてもらった	1.4
o Futures Japanからのメールで知った	1.3
o facebookで知った	1.3
o HIV陽性者向けのSNSで見た	1.3
o 他のHIV陽性者に口頭で教えてもらった	1.0
o HIVに関するNGO/NPOのメーリングリストで知った	0.7
o HIVに関するNGO/NPOのニューズレターなどの印刷物で見た	0.6
o 検索エンジンで検索して知った	0.6
o HIV陽性者向け以外のWEBページで見た	0.4
o HIV陽性者向け以外のSNSを見て・やりとりで知った	0.3
o 噂を聞いて	0.3
o その他	2.5

※医療機関でフライヤーを手に入れた　8人

回答に使用した端末はスマートフォンが 759 人（83.6%）ともっとも多くなっていました。第 1 回調査でスマートフォンからの回答者が 31.8%、第 2 回調査では 68.9%でしたから、この 3 回の調査の間に大多数の回答端末がスマートフォンに変わってきていました。

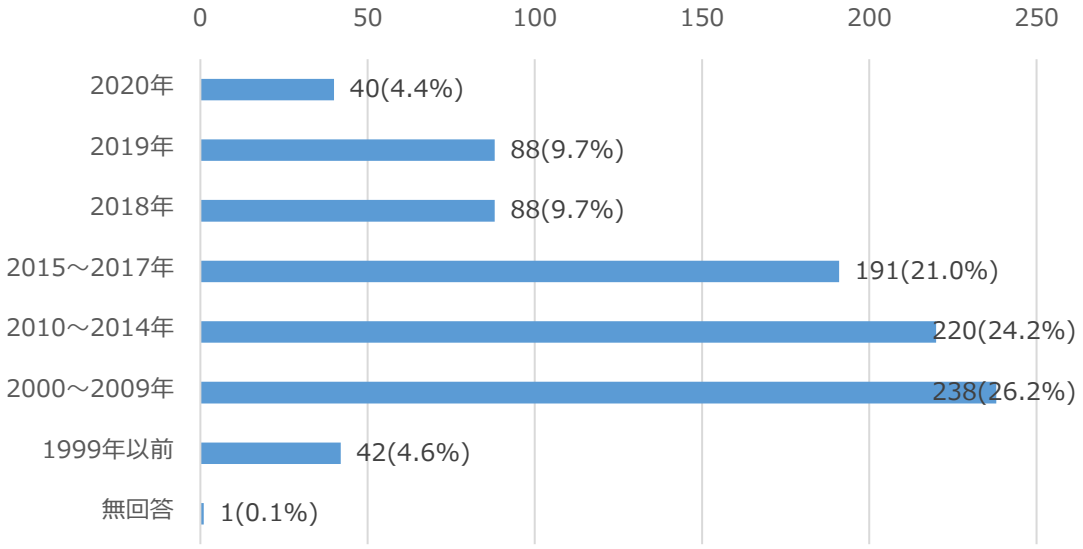
■HIV 陽性であることを理由とした引越し

HIV 陽性であることを理由に引越した経験がある方は、過去 3 年間で 27 人（3.0%）おり、その回数は 1 回が 24 人、 2 回が 3 人でした。3 年前以前については 42 人（4.6%）おり、その回数は 1 回が 36 人、 2 回が 3 人、 3 回が 3 人でした。

■HIV 陽性とわかったときの状況

HIV 陽性であることを知った時期は 1980 年代から 2020 年にわたっていました．現在に近い時点で知った方が多い傾向にありました．前回調査(2017 年)以降に陽性であることを知った方は 216 人(23.8%)でした．

図 1-3　HIV 陽性であることを知った時期



■現在の健康状態

AIDS 発症の状況については，218 人(24.0%)が医師からの診断を受けていました．また、医師からの診断は受けていないが AIDS を発症していると思うという方は 16 人(1.8%)でした．646 人(71.1%)は、AIDS を発症したことはないと回答していました．

最新の CD4 細胞数が 651 個以上と回答した方は 266 人(29.3%)でした．前回調査と比較すると 651 個以上と回答された方は前回(30.2%)とほぼ同じ割合で，日和見疾患の危険性が高まる 200 個以下と回答した方は 88 人(9.7%)で前回(10.2%)とほぼ同じ割合でした．最新の HIV ウイルス量(HIV-RNA)が検出限界未満だったのは 634 人(69.8%)が検出限界未満で，前回(70.7%)とほぼ同じ割合でした．

図 1-4　AIDS 発症の状況

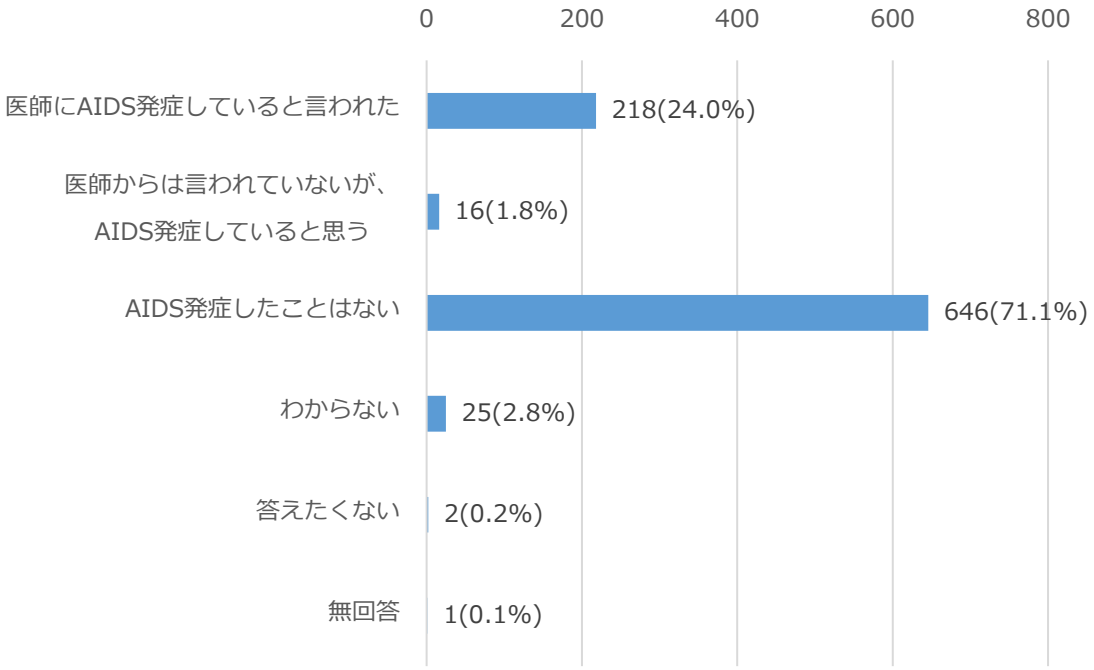


図 1-5　CD4 細胞数

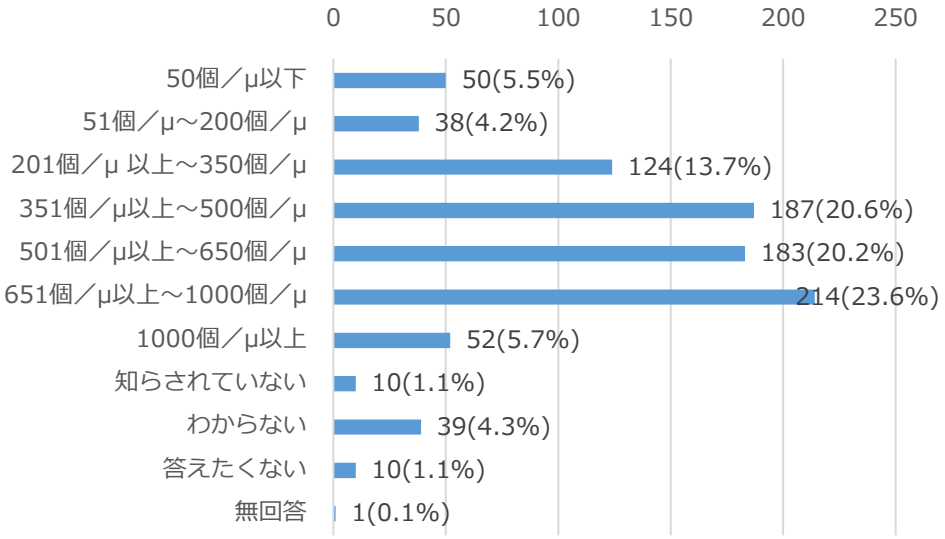
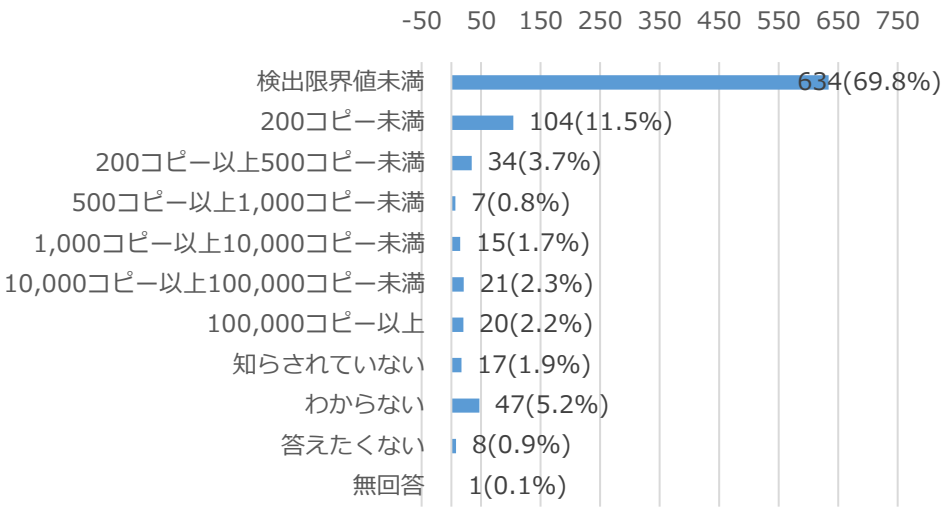


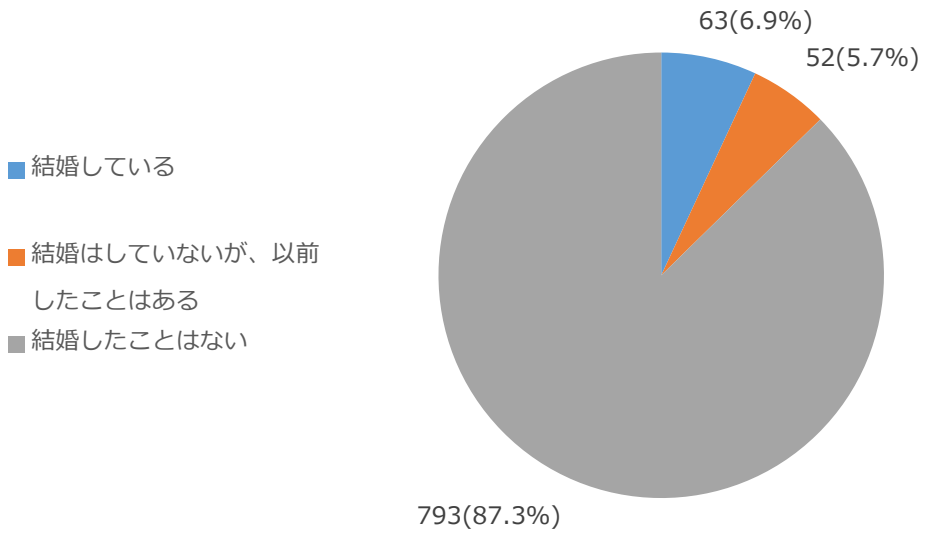
図 1-6　血中ウイルス量



■婚姻・パートナー・同居者の状況

法律的婚姻の状況については，調査時点で結婚したことが無い方が 793 人(87.3%)と最も多く，法律婚をしていた方は 63 人(6.9%)，法律婚の経験があった方は 52 人(5.7%)でした(図１－７)．法律婚をされていない方のうち，事実婚をしている方は 113 人(13.4%)でした。自治体の「同性／性的少数者パートナーシップ制度」の利用状況については，利用している人は４人でした．

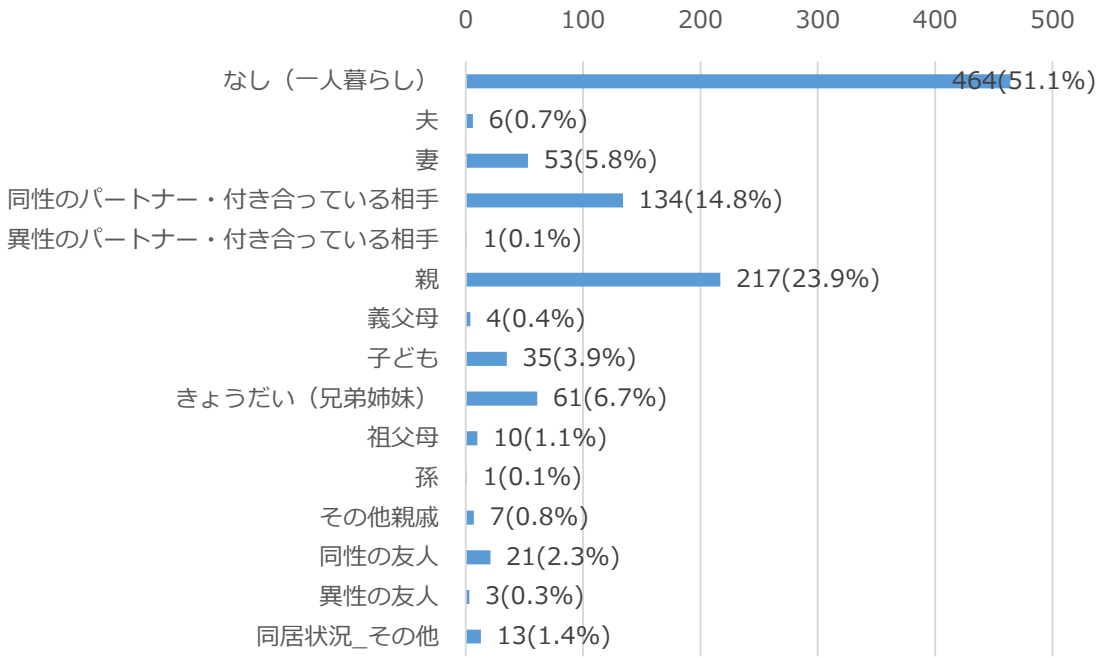
図 1-7　法律的婚姻の状況



■同居者の状況

同居者の状況については，同居者がいない一人暮らしの方が最も多く 464 人(51.1%)でした．同居されている方は多い順に，親(23.9%)，同性のパートナー・付き合っている相手(14.8%)，きょうだい(6.7%)，妻(5.8%)となっていました．

図 1-8 同居者の状況



■回答者の居住地

回答者の居住地は 47 都道府県にわたっていました．最も多かったのは東京都（298 人、32.8%）、次いで大阪府（109 人、12.0%）でした（図 1 － 9 ）。居住地は中心市街地の方が 476 人（52.4%）、郊外住宅地が 398 人（43.8%）であり、中心市街地・郊外住宅地で 9 割以上を占めていました（図 1 -10）

図 1-9　回答者の居住地

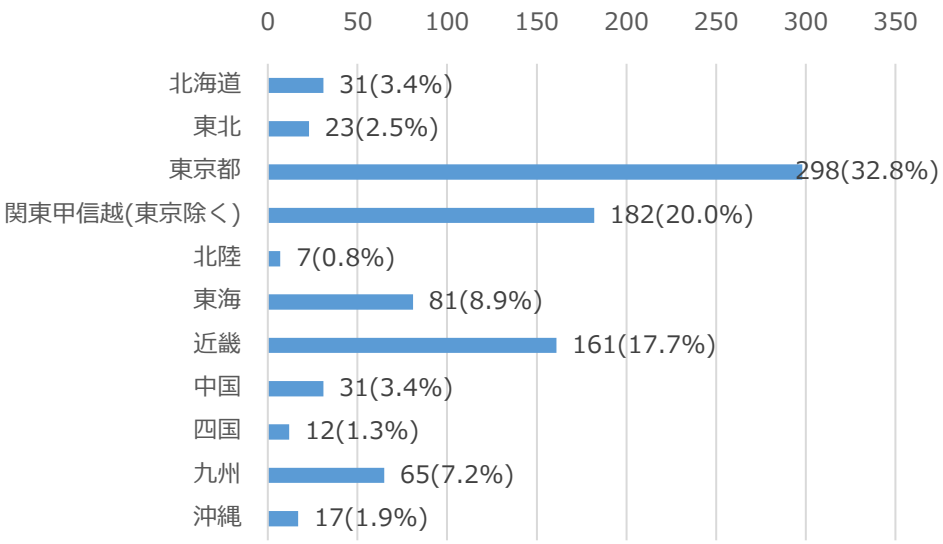
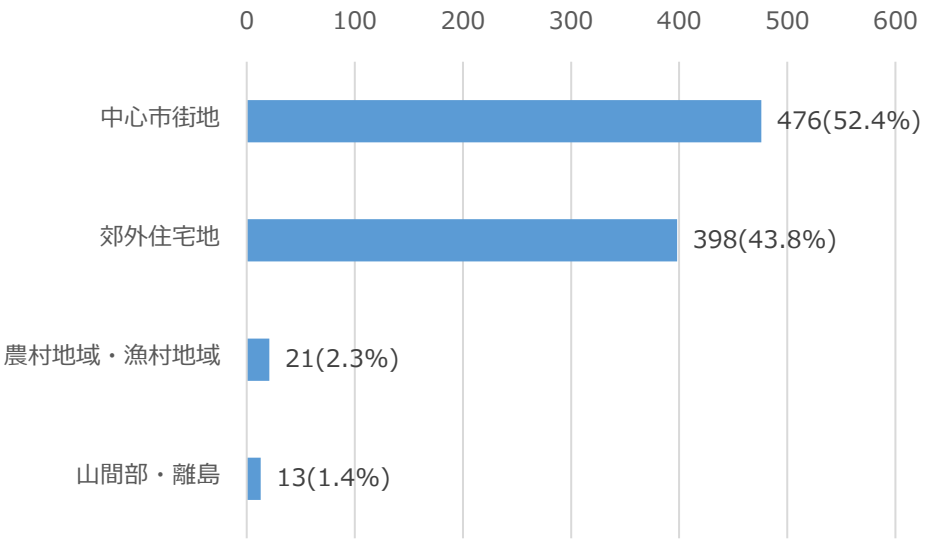



図 1-10　居住地の特徴